



並木中等story

令和4年10月20日号

ありのまま

今日は春日耕夫先生の『よい子という病』（岩波書店）に書かれている内容からです。保護者や教師は生徒（子ども）に対して、このようになって欲しいと願いをかけることが多くあります。しかし、生徒（子ども）がその通りになれば喜び、逆にその通りにならないときは失望することがあります。

春日先生は「ありのままの自分をまるごと許し、受け入れ、愛してくれた“誰か”が

いるという確信をもつことができた時、初めて、人はありのままの自分を他人から受け入れられ、愛される存在として（自らを）感じ取ることができるようになる。」と書いています。

また、先生は「従順な子」とは、まわりが彼に期待し要求することに応えることを自ら望む子ども、則ち「よい子」であるといいます。「よい子」にも悩みはあります。思わぬ方向に急展開することもあります。「よい子だったあの子がなぜ登校拒否？！」という人がいますが、先生は「よい子だったからこそあの子は登校拒否に・・・と考えなければならないのではないか。」と言います。生徒（子ども）は一人の独立した人間です。ありのまま、あるがままに受け入れてあげたいです。



《祝 関東高等学校新人大会出場！》

第63回茨城県高等学校陸上競技新人大会において、5年次の雑賀さんが標準記録を突破し、関東大会出場を決めました。

おめでとうございます。